

CSSD information

メディコム CSSD インフォメーション

滅菌管理(中央材料室)業務の理解と作業のポイント



広島感染防止及び滅菌業務研究会 会長

下前 恵 先生による

「滅菌物の保管について」

皆様、こんにちは。

滅菌物の保管について、全国のさまざまな病院を訪問させていただくなかで、見逃されている点や気をつけると良い点などをお話します。より良い滅菌のために、ぜひ取り入れてみてください。

滅菌物を取り扱うときに大切なこと

- 滅菌は滅菌工程だけでなく、保管や取り扱いも大切です
- 患者に使用するまで滅菌物の無菌状態を維持することが重要です

滅菌物を取り扱うときに気をつける点を見ていきましょう。
普段は気がつかないこともあるので定期的に見直すと良いですね



ポイント1

滅菌物を濡らさない

- 滅菌物を濡れた手で触らない
⇒ グローブを着用する
⇒ アルコール擦式手指消毒剤が完全に乾燥するまで
滅菌物を触らない
- 滅菌物を運ぶときに腕で抱えない
- 滅菌物を水が飛び散る周辺に保管しない



手指に擦り込んだアルコールが揮発する前に滅菌物を触ってしまうことを防ぐためにも、グローブ着用が推奨されます



ポイント2

滅菌物を落とさない・汚さない

- 滅菌物を落とした場合、
再洗浄・再滅菌する

滅菌状態が破綻したと認識しましょう。
滅菌包材が破袋していなくても、
落下箇所は破袋しやすくなっています



ポイント3

滅菌物の保管中に圧力をかけない

- 滅菌物同士を輪ゴムなどで束ねない
- 滅菌物を収納場所に押し込まない
- 滅菌物を積み上げて収納しない

時々見かけますが、滅菌物を
束ねたり、押し込んだりすると
破袋しやすくなってしまいます



ポイント4

滅菌物は決められた場所に保管する

- 滅菌物は可能な範囲で閉鎖棚に保管する
- 滅菌物を水が飛び散る周辺に保管しない
- 滅菌物を壁に立てかけない
- 誰でも迷わずに「先入れ先出し」できるよう、ルールを設ける
(例:奥に入れ、前から出す。左から入れ、右から出す)
- 高圧蒸気滅菌後は、滅菌物の温度が冷めるまで台車に置いたまま動かさない
(滅菌物が熱いときに冷たいところへ置くと結露が発生しやすい)

既滅菌室へ出入りできる人を
限定することも大切です



推奨される滅菌物保管場所
(医療現場における滅菌保証のガイドライン2021 抜粋)

- 床から少なくとも20cm以上
- 天井のスプリンクラー設備周辺から45cm以上
- 外壁から5cm以上

まとめ

使用時まで、滅菌物の内部を確認することはできません。
滅菌物の無菌性を維持できるよう、滅菌物の無菌性が損
なわれる可能性がある作業は行わないようにしましょう

